

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年5月23日

No.21

組合：収入拡大に向けて社をあげて取り組むべきだ！
会社：収入目標1067億円の確保に向けて全力をあげる！

～2013年度 夏季手当第2回交渉報告～

中央本部は、本日10時より第2回夏季手当交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ①4月の収入動向は自然災害・輸送障害等の影響で、対計画値△1億8000万円であった。
- ②コンテナ輸送量は、前年度を上回り、全体で前年比 101.7%となった。車扱貨物については、全体で 102.3%となった。
- ③5月上旬は好調であったが、金利上昇の影響で企業の荷動きは鈍化し計画未達の傾向が出ており、収入拡大に努めていく。
- ④一部の支社からは、欠車等で収入に反映できない影響が出る恐れのある報告もあり、荷主の情報収集に努めていく。

【関連事業部門】

- ①関連事業収入は、分譲マンションの収入が主な柱であるが、開発可能用地も減少し厳しい状況である。収入確保に向け取り組んでいく。
- ②平成25年度は、本社増収努力5億円を目標とし、全体で326億円の達成に向けて取り組んでいく。

【組合の主張】

- ①収入確保・拡大は極めて経営陣の責任であり、臆を決して臨むこと。
- ②人件費削減は絶対に認めない。外部からの指摘は、経営姿勢を問うものであり、我々に責任転嫁する根拠は一つもない。黒字決算を還元すべきだ。

【会社の回答】

- ①輸送障害対策等については、社内で意思統一を図るとともに輸転資材の確保に努める。
- ②効率的に運用を進めているので、計画目標の1067億円以上の収入確保に向けて取り組んでいく。組合の指摘はしっかりと伝える。

最後に中央本部は、「平成24年度は経常黒字を達成した。今年度は、黒字達成計画としており支払い能力は充分にある。運輸収入確保が大きな課題で経営姿勢が問われている。欠車対策や編成減車対策をはじめ組合員に見える対策を打ち出すこと。経営陣の収入拡大に対する必死さが伝わらない、全力で取り組むこと。組合員のモチベーションを高めるために要求に対して満額で応えること」を主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、5月28日（火）です。